

下田まち遺産ニュース その1

立野歩道橋を 景観配慮色に塗装し直しました。

平成 27 年 2 月、立野歩道橋が色彩新たに生まれ変わりました。これは、歩道橋の老朽化対策で歩道橋を塗装し直すこととなった下田土木事務所から相談を受けた下田市景観まちづくり審議会が、現地確認や色彩検討などを重ね、景観に配慮した色彩(グレーベージュ)を提案し、決定しました。現在は、温泉場の和の雰囲気や自然景観に調和した色彩の歩道橋となっています。

写真は施工前後の立野歩道橋の様子



下田まち遺産ニュース その2

白浜落石注意看板を審議しました。

昨年夏直前、下田まち遺産である白浜大浜海岸の南側の岩場で落石がありました。夏は人が立ち入らないように規制されていましたが、夏以降は規制が解かれるため、市有地に注意喚起のための落石注意看板を設置することになりました。ここでも下田市景観まちづくり審議会が現地確認や色彩デザイン検討を行い、景観に配慮しながらも注意喚起できるような看板を設置することができました。

写真は施工後の白浜落石注意看板の遠景と近景



下田まち遺産ニュース その3

第6回下田まち遺産 こどもシンポジウムを開催しました。

平成 27 年 2 月 21 日(土)、第 6 回下田まち遺産こどもシンポジウムを開催しました。今回は、大賀茂小 6 年生、白浜小 5 年生、稲生沢中 1 年生に参加していただきました。大賀茂小 6 年生は、幕末の下田の歴史を劇でユニークに表現した後、開国のまち下田にふさわしい英語劇の桃太郎を発表し、見ている方も楽しく勉強することができました。白浜小 5 年生は、白浜のすてきな場所やお店等を発表しました。「成人したら三番叟を踊ってみたい」等の意見もあり、みんな白浜が大好きなことがわかりました。稲生沢中 1 年生は、蓮台寺温泉しだれ桃の里の見学、吉田松陰寓居処の茅葺き直しや学区内の下田まち遺産を回る等、稲生沢の下田まち遺産についてとても良く勉強してくれました。また、最後に下田市景観まちづくり市民会議委員で講師の鈴木まもるさん(絵本作家・鳥巢研究家)と子供達とで意見交換を行い、下田まち遺産の条件は何か？景観を守るにはどうしたらいいのか？について、活発な意見交換会ができました。



(上・下写真)
意見を発表する子供達。



第6回下田まち遺産こどもシンポジウムにて発表してくれた子供達。
(左から)大賀茂小 6 年生、白浜小 5 年生、稲生沢中 1 年生。

下田まち遺産ニュース その4

景観まちづくり賞を表彰しました。

平成 22 ～ 25 年度に建てられた建築物のうち、建設課に取組書を提出されたものの中から、景観的に素晴らしい建物を選出し、下田市景観まちづくり市民会議の協力のもと、4 件の建築物に対して「景観まちづくり賞」を授与しました。表彰式では、受賞した建築物の代表者である泰平寺の安藤住職、小規模多機能みくらの里の高橋所長に参加いただき、建築物の景観に配慮した部分等についてインタビューしました。今後も表彰していく予定ですので、新たに建築物を建てられる方については、景観に配慮したものを建てていただくをお願いします。



受賞された小規模多機能みくらの里高橋所長(左)と泰平寺の安藤住職(右)。

景観まちづくり賞を受賞した建築物 P9,10 のマップに記載



泰平寺
景観まちづくり賞 新築部門

池で囲むことで中央にある釈迦堂が浮いているように感じさせ、池には多数の睡蓮、周囲には植樹をすることで、良好な景観を作っています。また、建替え以前に使用していたものの再利用等、新しい中にも古いものを採用しているところが評価されました。



下田ベリーロード蔵
景観まちづくり賞 新築部門

道路に接する面に植栽を施し、外壁は漆喰塗りにする等、周囲の景観に調和するような配慮が多数みられました。また、自然素材のバランスや建造物全体の大きさのバランスが良く、入口からの通路の路地感も評価されました。



佐々木邸
景観まちづくり賞 新築部門

外観は自然調の落ち着いた色、蔵前面のなまこ壁を残す等、景観に配慮しています。道路からのスロープが自然であると共に、母屋と蔵の屋根勾配を同じにすることで、古いものと新しい建物が共存する空間を作っているところが評価されました。



小規模多機能型 居宅介護 みくらの里
景観まちづくり賞 新築部門

周囲から突出することないような高さを抑え、温かみのある色彩を採用することで圧迫感なく落ち着いた外観となっています。また、タンクを植栽で覆い隠す等、景観に配慮している点が評価されました。

※佐々木邸は一般住宅ですので、見学はご遠慮ください。また、泰平寺の見学については、一般住宅と同様に、事前に許可を得るようにしてください。

小さくても重要。 一つ一つの取り組みが下田の景観を守ると信じて・・・

景観の主役は自然景観や人々の暮らしの景観です。その主役を引き立てるため、原則、公共施設は景観の脇役として景観に調和する必要があります。また、看板のように 1 つ 1 つは小さくても景観に与える影響の大きいものもあります。市は、今後も下田市景観まちづくり審議会の協力をいただきながら、下田の美しい景観を守っていきたく考えています。



①景観審議会委員による立野歩道橋の現場視察風景。②③白浜落石注意看板のデザインと色の現場検討会。